

第2回鶴岡地域審議会記録（地域コミュニティ分科会）

日時：平成22年8月25日（水）午後1時30分～

会場：鶴岡市健康福祉センター にこふる 会議室

出席者：山田登、五十嵐寅吉、茅野進、五十嵐修、五十嵐松治、加藤玲宗、後藤輝夫、齋藤春子、阿部和博、竹内峰子

（市役所）：門脇秀夫、富樫栄一、石塚みさ、清野健、吉住光正、五十嵐恭子

○山田分科会長（あいさつ）

地域がいきいき安心して楽しく生活できる、生活の基盤になる地域のあり方を深く掘り下げていくのが、この分科会。人口動態も年々変化している。変化の中から解決の知恵を出し合いたい。

○市民生活課 門崎次長

地域課題が複雑多様化している。コミュニティの役割や重要性が増している。合併後も地域ごとにより相違がある。平成20年度から継続してコミュニティ実態調査を実施している。

○市民生活課 富樫主幹

市内には469の町内会、住民会があり、平成20年度から直接聞き取り調査を行っている。調査期間は今年度までなので、今年度は調査方法をアンケート形式に変えて実施予定。

（コミュニティ実態調査のこれまでの調査結果を説明）

コミュニティ実態調査についての質疑応答

○茅野進委員 社会福祉協議会の地域福祉計画は、地域を4層のエリアに分けて進めてきた。コミュニティ実態調査のように5層に分けたのは市の方針か。

○富樫主幹 地域コミュニティでは隣近所の関係も大事なので、調査においてはこういった形にしている。この計画は5層で行いたい。社会福祉協議会とも連携をして進めたい。問題が幅広い。

分科会

○山田登分科会長 町内会、自治振興会で情報交換し、一緒にできることを検討している。会費や寄付金などについて調整している。統一見解が出てくるだろう。

○五十嵐寅吉委員 独り暮らしも年々増加している。黄金地区も70歳以上の独り暮らし世帯からは自治会費を集めないことにしている。郊外地では独り暮らし世帯を手助けして安心して暮らせるかが課題。

○山田登分科会長 個人情報保護とからめて高齢者の取り扱いも大変。自分の町内会でも夫婦で施設に入所し、いなくなった家がある。いなくなった情報が入らない。敬老会の案内名簿を作るにも、直接行かないと分からない。

○茅野進委員 総合計画は行政施策なので細かく拾っている。話し合う機会、顔が見え

る活動が必要。きめ細かく(=だれがどこで何をするか)示すこと。認知症対策では、市がモデル事業の指定を受けてから、その動きで連携が変わってきている。

○五十嵐松治委員 実態調査を聞いて共通することは、地域活動への孤立、負担増など、役員になりたがらない活動に対する理解が不足。サービスは受けたいが世話はしたくない、そういう感情が基底にある。我々の対策は何か。事情を知っている会長さんたちと一緒にやっている。そこをどう高めていくか。その活動がなかった。福祉に取り組む人材を多く確保できるように、民生児童委員をどのような形で確保していくかがこれからの課題。

○山田登分科会長 民生児童委員の相談は多岐にわたっている。子ども、介護など。たいへんであると認識をしながら、委員を育てる仕組みづくりが必要。

○五十嵐修委員 学区編成についての準備が進んでいる。田川は複式学級で、地域としての対応が大事。情報から提供してもらいたい。

県外では子宮がんワクチンの接種無料化の助成がある。市でも検討してほしいと要望したい。

○加藤玲宗委員 スポーツ活動する子どもたちの活動をもっとお知らせしたい。地域に明るい話題を入れたい。全国大会に参加する選手も多い。すばらしい子どもたちが町内会にいることを明るいニュースとして、みんなで喜びたい。バランスのとれた人間になってほしい。工夫をこらしたスポーツ教育をしたい。

○山田登分科会長 子どもの声が地域から聞こえるのはすばらしいこと。

○後藤輝夫委員 地域コミュニティの議論を深めることに期待したい。旧鶴岡市は小学校区～中学校区ではすぐにはいかない。足元の団体で何かを企画しても調整が難しい。(地域づくりの役員が?) スペシャリストがエゴイストになってしまう。自分の枠をゆずらなくなる。スペシャリストがお山の大将になっている。その状況に危がっている。足元の住民や、事業のあり方が無視され、自分たちの団体の調整だけになってしまう。

○斎藤春子委員 現実には実態調査のとおり。年寄りが考える地域と若い人が考える地域が違うのではないか。今までの地域を存続させていだけでいいのか。実態があつてのものでないか。少子化も高齢化も実態。避けて通れない。その上で考えないといけない。実情はこれで精いっぱい。地域活性化推進室の活動を市民生活、庁内の縦割りの中で、どの課でも同じ話になる。どこでとりまとめていくかを考えて欲しい。お互いに気配りはやっている。地域のコミュニティとして何ができるか。お年よりへ声かけはやっている。地域の中で自然な助け合いは行われている。行政はどこまで手を差し伸べられるか。年寄りが増えているのは実態だ。実態調査は悪い事例ばかりが上がっている。地域ごとに歩みは違うが方向が全く違うということはない。住民がどこまでまとめられるかだろう。実態の中でしか方向は見つからない。避けて通れない。行政も一体となって、地域の活性化、地域づくりを進めていきたい。

○阿部和博委員 現在、消防団では10代～70代の1,300人が活動している。うち、8～9割が事業所勤務。日中の消防力が低下している。2～3年前の調査では、日中の災害への対応が地域よっては0のところもあった。現在、消防団OBを対象に、消防協力員を募集し、初期活動をやってもらい、その後、かけつけた消防団に引継ぐ

体制をとっている。

消防団は、自己中心的な若い人が地域を見直すいい組織になっている。消防団は消防組織法で定められた特別職公務員としての自負心もある。自主防災組織としての連携が進んでいる地域もある。防災だけでなく、地域と一体となった活動をしていきたい。

○竹内峰子委員 市街地の保育園は順番待ち。特に乳幼児を受け入れ出来る園が少ない。来年、乳幼児のみの保育園が開園予定となっている。郊外地では学童保育の設置が課題。三瀬、西郷、上郷ではコミセンで放課後子ども教室を実施している。下校時から午後6時30分まで子どもたちを預かるもの。今は、夏休み期間中の開催が課題となっている。夏休み期間中だけ6学区の学童保育に預けた事例もあった。

原点である、隣組単位の人と人の係わり合いが希薄になっていないか。元気なうちはかまわないでほしいのか、特に男性の方は頑なに家に入るのを拒まれるケースがある。民生児童委員だけでは、どうしようもない。山形市では福祉協力員制度を始めている。老人世帯では、ごみの分別も間違いが多い。茶色のごみ袋が増えた。(茶色だと何でも入れられるためか)。間違っ、注意されるのが怖くてごみを出せない人もいる。5層のコミュニティでは、誰がどうするかを考える機会にもなると思う。

○斎藤春子委員 地域、隣組の活動を相談できる窓口がほしい。

○富樫主幹 コミュニティ実態調査は課題としてまとめたのでマイナスのイメージが強いものになった。いいものをどう課題解決に生かすかだろう。

○山田登分科会長 協力体制(役割分担)を確認する場が必要ではないか

○吉住室長 話が多岐にわたっている。次回以降、项目的に整理して示したい。

第2回鶴岡地域審議会記録（産業経済分科会）

日時：平成22年8月25日（水）午後1時30分～

会場：鶴岡市健康福祉センター にこふる 会議室

出席者：早坂剛、今野毅、五十嵐吉右衛門、延味孝太郎、佐藤正廣、本間孝夫、荘司正明、
（市役所）：小室邦秀、粕谷一郎、中野律

○今野分科会長あいさつ

より良い地域を作ることには誰も異論はないはず。産業経済分野における地域資源を活かした活性化について、忌憚りの無い意見、提案、アイデアをいただきたい。

○農政企画室 小室室長

農林水産を核にした先進的な取り組み事例を紹介（資料参照）

分科会

○佐藤正廣委員 青年会議所の重点活動項目は、地域コミュニティの活性化。赤川花火大会を通して広域に活動、協力依頼で他地域に足を運び活動、違う分野の情報交換・協力など横の繋がりが強くなる。

現在の青年会議所の会員構成は、地域産業構造に合わせて変化している。建築業から商工業、そして現在はサービス業が多くなっている。産業構造の変化に伴う過渡期。

○今野分科会長 この過渡期をどう乗り切るかも活性化のヒントのひとつ。

○本間孝夫委員 鶴岡市の人口微減、高齢化も進んでいる。地域をどのように元気付けるか。高齢化に対する地域の役割。旧市内1～2人暮らしの高齢者多くなり、買い物に不自由している。産直カーは、生産者の視点でスタートしたが、その運行は非常に重要。

高齢化の人でも楽しめる農業体制。遊佐町の特産品開発の例（パッケージに対する支援、マーケティングを伝える支援など）は参考にすべき。

○荘司正明委員 高齢化に対する地域の役割が重要（介護予防に繋がる仕組み）。酒田市では、高齢者の自動車免許返納後の支援策として電動アシスト自転車の購入補助金を制度化。農業の後継者不足も深刻であり、定年退職者の農業参加を促す取り組みも。

○延味孝太郎委員 鶴岡市の人口が減少しており、地域活性化には交流人口増に期待をすべき。観光業は全産業に関わり多く、観光振興は、産業振興にもつながる。

○五十嵐吉右衛門委員 市は農林業の町であるが、林業所有者にメリットなく、高齢化が進んでいる。林家に利益の上がる取り組み、イベントを。公共事業も相当あり、雇用助成も。

若いサラリーマン農家に対する技術、営農指導などJAの指導体制の強化が必要。生産意欲、生産額の増につながっていく。

○早坂剛会長 商工会議所の課題は、観光振興と雇用の安定、人材育成の2つ。人口減の状況、交流人口増加に繋がる対策が必要。お角櫓の復元と旧鶴岡警察署移設により致道

館から致道博物館までを城下町らしい景観に。

働き手を残せる町にするには、農林業も含む企業の育成が重要。一次製品の加工や商工業との連携による地場産業の活性化。

山王商店街、平成 24 年度に歩車道のフラット化。まちキネと連携したまちづくり。中心市街地の活性化へ。

- 今野分科会長 城下町らしさの復元、城下町の自負心、そうしたまちづくり、ひとづくり。誰もが鶴岡の課題を十分認識している。やるべきことは集約されているのでは。市街地に観光資源があり、中心部に人を呼ぶ、農林業の振興も含めどう活かしていくのか。
- 佐藤正廣委員 商店街の大きな問題は、住商一致。商店街のニーズが無くなる＝廃れる。
- 早坂剛会長 商店街の活性化、非常に難しい。魅力ある商店づくりが重要。
- 小室室長 商店づくりの事例として、産地品などに関連ある商店、店舗が張り付いていく。提携できる人、地を見つけていくしかない。
- 本間孝夫委員 買物難民の存在、都会に 100 万人とも言われている。市内の朝日・温海地域に（特に冬場）、いないのか。今後増えていかないか。
- 小室室長 市では中心部にその傾向がある。市役所駐車場で毎月 2 回開催の朝市、産直カーに対する期待が大きい。
- 本間孝夫委員 産直カーに頼っている高齢者は多い。コンビニやスーパーは事業として採算に合わなければ撤退する。これからの産直カーは重要だが課題も多い。生産者の高齢化、顧客の高齢化、開設場所、御用聞きサービスの取り組みなど 2～3 年で深刻化すると思う。
- 五十嵐吉右衛門委員 今は行商で対応できている。
- 本間孝夫委員 農協の産直施設もその役割を担っている。
- 今野分科会長 農協本所近くの産直も近所の高齢者が多い。
- 荘司正明委員 介護予防では高齢者の足腰を鍛えることが大切。外に出かける動機付け。商店街は若者ではなく、むしろ高齢者のニーズに応える商店街にしてはどうか。
- 今野分科会長 業態変換の中で福祉関係に行く必要はないか。
- 佐藤正廣委員 来年、青年会議所では福祉関係の活動を予定している。設備業者が顧客の依頼により灯油を持っていったり、除雪をしたり、手すりを付けるなど取引の中で様々なサービスを提供している例もある。
- 今野分科会長 きらきらうえつ観光圏の中で、名所・旧跡等だけではなく、食文化をもっと活かしてはと考えている。
- 延味孝太郎委員 観光、交流人口の拡大には食文化は重要な要素。どのようなものを観光客に還元できるのか。寿司屋では地元の食材にこだわった連携を行っている。地元の旬の食材をどのように提供したらよいか。
- 今野分科会長 庄内、鶴岡には良いものが一杯ある。しかしこの地域の特徴として出ていない。アピールの仕方に工夫が必要では。
- 延味孝太郎委員 寒鱈は相当アピールしている。
- 佐藤正廣委員 料理はいろいろなところでやっている。酒田は北前料理と呼び始めた。食

文化も宿泊に繋がる取り組みでないと観光の目玉にならないのでは。

- 延味孝太郎委員 鶴岡に来ないと食べられないというもの、それを元に1泊2日の観光ルートの中に盛り込んでいかないと。
- 今野分科会長 観光パンフレットで紹介するにしても、もっと掘り下げ、文化として案内しないと。いくつかでも実現できるものがあれば。
森林が多い行政区、材木だけではない、里山地域で竹林の孟宗、藤沢かぶなど他の活用の仕方についても様々にチャレンジすべきと考える。
- 五十嵐吉右衛門委員 湯田川孟宗も市農政課よりきっかけを作ってもらった経過がある。
きっかけづくりは行政の役割。
- 今野分科会長 いずれにしても中長期的な展望が必要。
- 早坂剛会長 殿様のだだちゃ豆などブランドを統一する必要があるのでは。
- 今野分科会長 過去のいろいろな経過がある。
- 早坂剛会長 秋田県も新潟県も枝豆日本一を目指している。喧嘩している場合ではないと思うが。味や評価を統一する必要がある。
- 今野分科会長 それぞれの立場から意見が出された。この分科会から何か出したいので、観光、交流人口、商店街の活性化、一次産業との連携をどう取れんさせていくのか。次回までこの分野がつながりそうか考えてみておいてください。

テーマ別意見交換

高齢化と街の活性化

①旧市内の現状

商店街の衰退・・・スーパー・コンビニなど大手参入による商店の衰退、後継者不足による衰退

その後、利益重視の大手小売業撤退による街の空洞化

周辺の買い物客も高齢化による悪循環

閉店後も居住している為、空き店舗の貸し出し難によるシャッター街の増が、買い物難民を生んでいる。

商店で配達すると、関係のないことも頼まれる。

ここに商店の生き残りの鍵があるのでは？

②可能性

高齢者をテーマにした街づくり（商店街づくり）でもいいのでは？

徒歩圏内にある商店による介護予防と、高齢者のコミュニティ強化

御用聞きを活用から生まれる、異種業の連帯組織化

産直カーの活用性、産直施設の活用性も視野にいった取り組み

観光の街鶴岡の活性化

①鶴岡市の現状

豊富な観光資源・注目を集めている鶴岡の観光強化の遅れ

パンフレットによる、観光ピーアルのほか文化・人を重視したものが大事！

おもてなしのこころの重要性

観光客が求める食文化の追求の遅れ

②可能性

人を育てることは、雇用対策にも繋がる

城下町鶴岡を重点とした街づくりは統一性も生まれ、取り組みやすいのでは？

ハード面・ソフト面でも

寒たら汁・だだちゃまめなど単品ブランドの他に、北前料理、京料理、などの庄内独自料理の開発提供

加工施設の充実、加工品の開発、販売戦略の強化が高齢者雇用対策、観光にもつながるので は